

ヨコハマ市民まち普請事業

第一次整備提案書



※ 記入上の注意

- ① 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。
- ② 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。
- ③ 位置図及び現況写真以外に、整備提案のイメージ図などの資料をA4判2ページまで添付することができます。その際、資料の両側に15mm以上余白を確保してください。

| | |
|---|--|
| 整備提案名 (25字以内) | 太陽とコミュニティで耕すもろおかエコステーション |
| 提案グループ名 (25字以内) | 熊野の森もろおかスタイル |
| グループの現在の主な活動内容及び最近5年以内の活動実績 | H26～ エネカフェ（自然エネルギー・地域づくりの勉強会） H27 温暖化防止イベント（参加者約60名。パリでCOP21開催期間中に、COP21ではどんなことをしているか、横浜市の取り組み、冬の節電のアイデア、節電所づくりのアドバイス、市民の取り組みなどを各講師にお話いただいた） H27 エコストーブde朝ごはんイベント（参加者20名。町内会館を使用して、ロケットストーブを使った羽釜ごはん炊きの実演、歓談しながらの食事、食後に落語を聞く会を行った） |
| 整備場所の所在地 (町名又は丁目まで記入) | 港北区 師岡町 丁目 ※位置図及び現況写真（各A4判1ページ）を添付してください。 |
| 整備提案の内容 (どのような整備を提案するのか文章で記入してください) | 住宅地にある畑を、地域の人たちの「集える場」にしていくため、休憩所、雨水タンク、水の汲み上げや携帯の充電などに使えるソーラーパネルを整備する。畑作業や朝ごはん会を通じて、農の楽しさや自然にふれあうことの豊かさを体感しながら緩やかな多世代コミュニティを形成できるようにしていく。少ない木材で燃焼効率のよいロケットストーブによる、薪を利用した調理の実践、太陽の光で調理ができるソーラークッカーも利用し、使い方を学びながら災害時の準備もかねる。 <p style="text-align: right;">整備費用の概算額：約 270万円</p> ※ 添付資料として整備提案のイメージ図を添付することができます。（記入上の注意③） |
| 整備提案の動機や背景 (整備に対する地域のニーズや整備によって解決したい地域の課題、整備の必要性などに触れながら箇条書きで記入してください) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 師岡地区は、都市部にありながら自然が残り環境に恵まれている。畑や緑地も多いが住宅地のため、店舗や公園が限られたところにしかなく、交流拠点が少ない。 ・ 環境に関心を持ちながらも、畑や地主との接点がなく「指をくわえて見ている」あるいは、ちょっとやってみたいけど自信がない、環境活動にどう参加すればいいのかわからないなどで、一步を踏み出せない住民も多い。 ・ そんな方々が関わりやすいかたちで畑や休憩所（お休み処）があれば、地域の交流を生む「場」となり、主体的に関わる住民も増えると考えた。 ・ さらに、エコシステムや防災にも活かせる調理方法に日常から慣れ親しんでおくことで、自然災害や防災対策に関する意識を高めていける。 |

| | |
|--|--|
| <p>整備の効果 （整備したい施設がどのような人たちに利用され、地域にどのように貢献すると考えますか？）</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・畑や土に触れることで、人も生物多様性の一部であることが実感できる。作業に参加したり、話を聞くことによるコミュニティの形成とともに、リフレッシュ効果も期待できる。 ・エコシステムを活かす整備をすることで、光や風・水などの役割を知る。 ・畑作業を通じて野菜がどのように成長していくかを観察することで、食の安全性、環境への関心が高まり、それらへの配慮・意識づけになる。 |
| <p>整備した施設の維持管理・運営 （整備した施設の維持管理や運営に、提案グループや地域住民等がどのようにかかわっていきますか？）</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・施設の維持管理は、提案グループが主に行う。イベントとして休憩所を使い、採れた野菜を使った食のイベント（エコストーブde朝ごはん会）などを定期的に行う。興味のある人たちを巻き込みながら、楽しみつつ、足元の自然環境を持続的に管理しながら運営を組み立てて行く。 ・バザー、イベントなどにも積極的に参加し、地域の他の活動団体とも連携しながら、活動をひろげる。 |
| <p>○提案内容におけるアイデアやユニークさ ○提案を実現するために活用する地域の資源 注4) ○その他提案について特にPRしたい点</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○住宅地にある畑を活用し、オフグリッド（送電線につながらない電力の利用）による、休憩所の建設。 ○「ヒト」 この地区には、デザイナー、設計者、音楽家などの特技をもつ人が多く、ユニークなアイデアで楽しいイベントを開催しやすい。これまで行われていなかった農家と地域との連携のきっかけになる。 ○「モノ」 整備場所は、以前から団体のメンバーが荒地の頃から整備し、畑として活用して3年目になるため、地主からの信頼を得ている。 ○「カネ」 借地料は発生しない。採れた野菜を使ったエコストーブde朝ごはん会開催などで活動費として還元できるようになる。 ○市民活動が活発な地域なので、他団体とのつながりや口コミによって、さらなる個人がつながり、地域活性化に貢献できる交流拠点となる。 |

注4)「地域の資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

| 整備場所の地権者等注5)への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況 | |
|---|---------------------|
| 説明の相手方 | 相手方の意見等 |
| 土地所有者 | 日よけになる簡単なものなら置いてもよい |

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- ✓ 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- ✓ 記載内容に個人情報はありません。

【位置図】





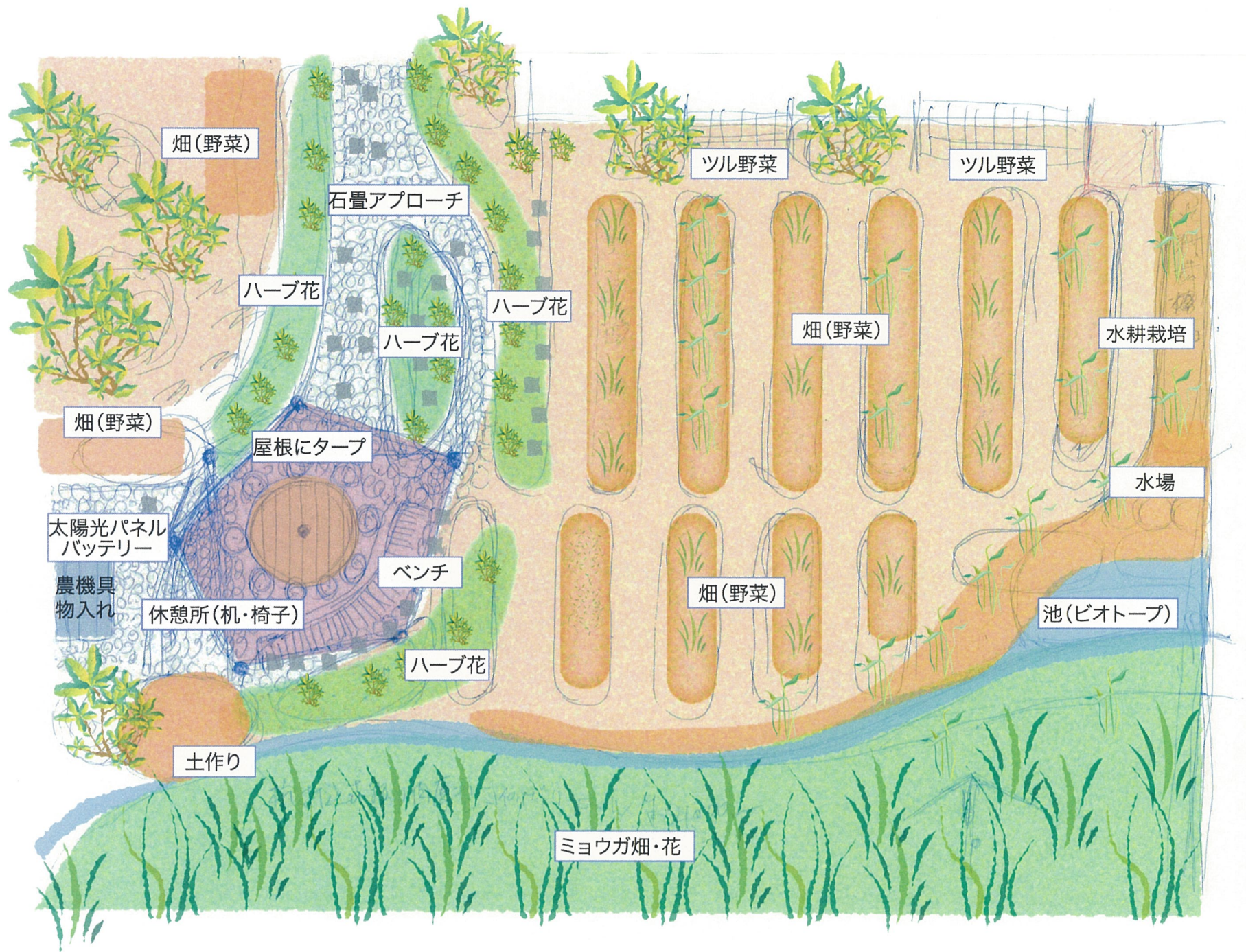
【上からみた整備場所（右手奥に水源がある）】



【開墾1年目のころ】



【エコストーブde朝ごはん会のようす】



【整備イメージ図】